

将来ごみ排出量等の予測結果と次期計画の目標値（案）

1. ごみ排出量等の予測結果

① ごみ排出量の予測結果

現行計画の推進により，ごみ排出量等はほぼ横ばい傾向で推移すると予測されます。

そのため，現状のままでは現行計画の目標（2031（令和 13）年度までに 1 人 1 日当たりのごみ排出量を 912 g 以下）は達成できないと考えられることから，本計画では現行計画の目標を継続し，さらなるごみの減量化を推進していくものとします。

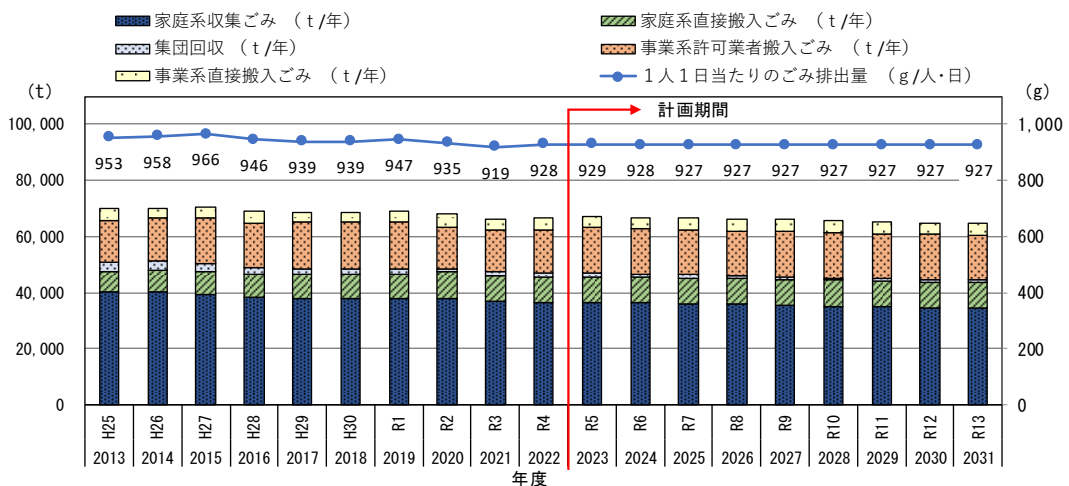


図 1 年間ごみ排出量及び 1 人 1 日当たりのごみ排出量の予測結果

② 資源化率の予測結果

行政回収による資源化率は年々低下しましたが，2019（令和元）年度以降の民間回収を含む資源化率は横ばい傾向で推移すると予測されます。

そのため，現状のままでは現行計画の目標（2031（令和 13）年度までに 28%以上）は達成できないと考えられることから，本計画では現行計画の目標を継続し，さらなるごみの資源化を推進していくものとします。

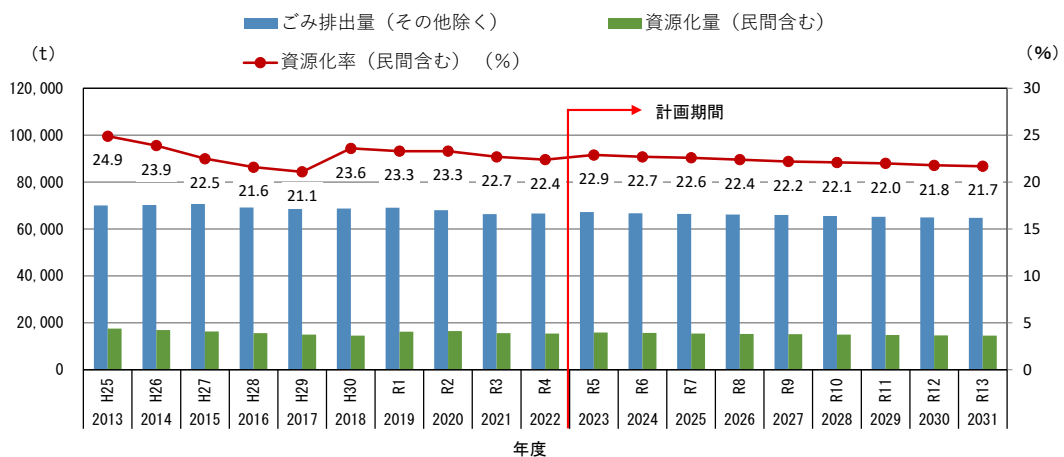


図 2 資源化量及び資源化率の予測結果

2. 生活排水処理率の予測結果

生活排水処理形態別人口のうち、公共下水道及び農業集落排水施設については、「生活排水処理アクションプログラム」により推進していきます。

しかし、現状のままでは現行計画の目標（2031（令和 13）年度までに生活排水処理率を 95.8%以上）は達成できないと考えられます。

そのため、本計画では現行計画の目標を継続し、単独処理浄化槽及び汲み取り便槽からの合併処理浄化槽への転換を推進していくものとします。

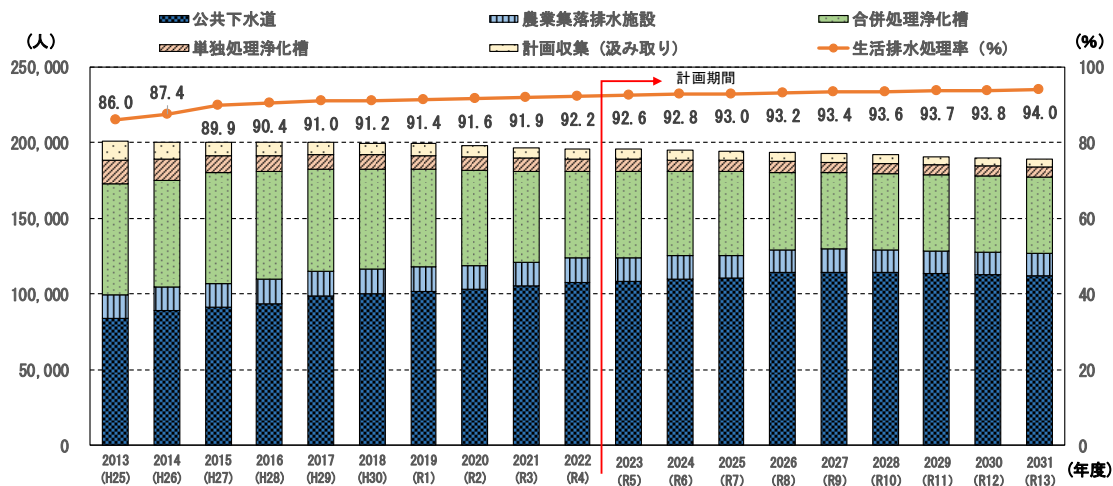


図 2 生活排水処理形態別人口及び生活排水処理率の予測結果